

挑みつづける、変わらぬ意志で。



発達段階に応じた アントレプレナーシップ教育の 推進について (概要)

2023年5月11日

1. 時代が求めるアントレプレナーシップ

長期化する構造的課題

- ・ 少子高齢化に伴う担い手不足
- ・ 労働生産性の停滞

予測困難な社会環境

- ・ 感染症 ・ 国際情勢
- ・ AIなどのIT技術革新

イノベーションの創出とそれを担う人材育成の重要性が高まっている

イノベーション人材に必要な力

情報分析力、実行力、課題発見力、リーダーシップ
チャレンジ精神、創造性、探求心

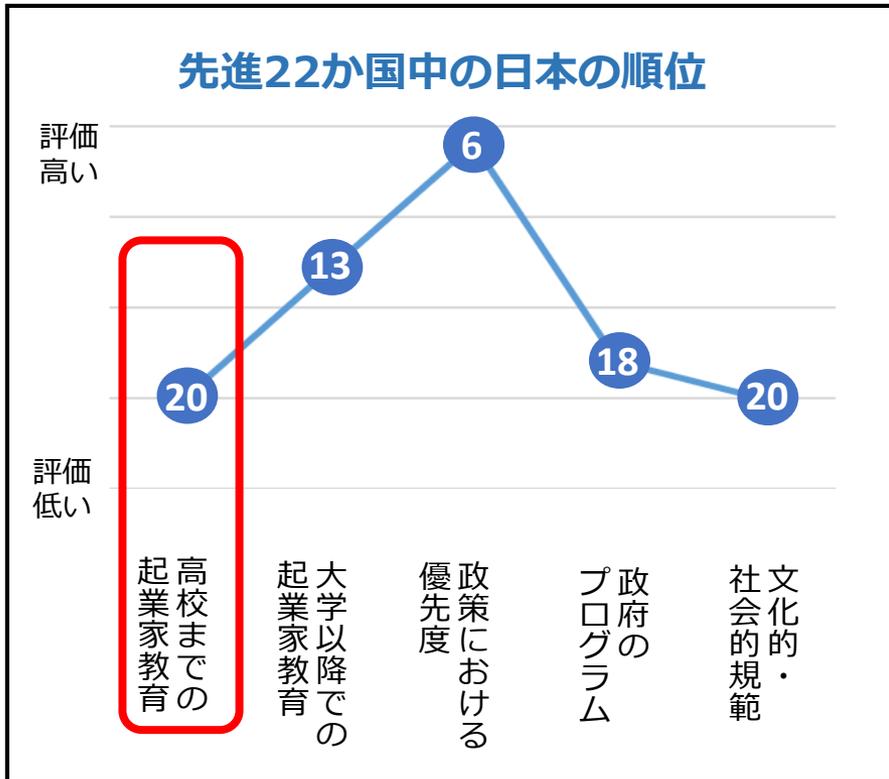
アントレプレナーシップ（起業家精神）

必ずしも「起業家」を育てることを目的とするのではなく
あらゆる地域・業種・職種に求められる「基礎的資質や心のありよう」
を育てることをアントレプレナーシップ教育と定義

2. 日本のアントレプレナーシップ醸成状況

若年層へのアントレプレナーシップ教育は国際的に低評価、
若者のリスク許容度も極めて低い

アントレプレナーシップへの評価



出所：グローバル・アントレプレナーシップ・モニター調査（2022年）を基に事務局作成 ※本調査はNES と呼ばれる「専門家調査」で、国ごと、各調査分野について最低4名ずつ、計36名（4名×9分野）の専門家に対するアンケートを行う。「とても十分=10」「とても不十分=0」とする評価。

若者のリスク許容度

(単位：%)	多少のリスクが伴っても、新しいことに 沢山挑戦したい	多少のリスクが伴っても、高い目標を 達成したい
日本	49.0	44.9
アメリカ	77.0	79.2
イギリス	78.1	81.4
中国	79.8	78.8
韓国	68.6	67.2
インド	84.4	87.6

出所：日本財団「18歳意識調査 第46回「国や社会に対する意識」（6カ国調査）」（2022年3月）

急激な社会環境の変化を受容し、
新たな価値を生み出していく精神を備えた人材の創出

地域経済を支える人材

社会人

高等教育

初等・中等教育



- 後継者（アトツギ）
- 既存企業活性化（イントルプレナー）
- 起業（アントレプレナー）

専門知識、手法、ノウハウの習得

商品企画、製造、販売などよりリアルに近い
ビジネス体験や
社会課題・地域課題解決を目的とした教育

アントレプレナーシップの醸成

主体性、リーダーシップ、創造力、
課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、
チームワーク力などの醸成を主眼とした教育

- ・ 地域・事業者など地域ぐるみでのサポート
- ・ 課題の発見・解決につながる体験の場の提供

4.アントレプレナーシップ教育普及に向けた意見①

可能性を広げる場として、初等・中等教育段階から取り組むべき

現状の課題

- ✓ 日本でのアントレプレナーシップ教育は高等教育（大学）を対象とした比較的専門性の高い内容が主体となっている
- ✓ 「スタートアップ育成5か年計画」での小中高生向けの主な取り組みは、全国8つのスタートアップ・エコシステム拠点都市での教育プログラムの展開にとどまる



- ✓ アントレプレナーシップ教育で培う力は基礎的資質や心のありようで、人の思考の基盤となるものであり、より多くの子どもたちに教育機会が与えられるべき
- ✓ 若年層への教育は、「起業」というよりむしろ、「既存企業活性化」や「事業承継」への可能性を広げる取り組みであり、地域活性化にもつながる

アントレプレナーシップの重要性を関係者で共有するべき

現状の課題

- ✓ アントレプレナーシップへの理解・認識が各関係者で異なる
- ✓ 他方、行政の中では産業振興・商工関係の部局が主体的に進めているケースが多く、教育委員会や教育担当部局との連携ができていない様子が見受けられる



- ✓ アントレプレナーシップが多くのある場面で有用な資質・能力であるという認識を、各関係者が共有することが重要
- ✓ 行政内部でも部局間の連携を進めることが重要
- ✓ 地域・家庭・事業者に対しても、アントレプレナーシップ教育の趣旨を正しく理解するための周知を実施して、社会全体が失敗を否定せず、挑戦を受け入れる機運醸成を図っていくべき

アントレプレナーシップ教育の定着に向けた環境を整備するべき

現状の課題

- ✓ これまで多くのモデル事業が実施されたが、取組みの広がり・継続につながったものは少ない
- ✓ 教育現場では、時間・資金・人が不足しており、新しい取組みを始める余裕がない



- ✓ 指導者が無理なく取り組める環境を整備することが必要
- ✓ 学習指導要領でアントレプレナーシップ教育の位置づけを明確化し、既存教科と紐づけたカリキュラムやそれに合わせた教育ツールを国が提供するべき
- ✓ 卒業後の進路など中長期的な教育の効果測定を国が行い、教育プログラムの質向上を図るべき

コーディネーター・地域協力者の配置・確保に取り組むべき

現状の課題

- ✓ アントレプレナーシップ教育の普及・定着を図るには、学校・自治体・地域企業等の連携が不可欠
- ✓ 一方で、各関係者を連携させる「つなぎ手」の量と質が不十分



- ✓ 「地域学校協働本部」など既存の仕組みを活用して、コーディネート機能を担う人材育成や組織整備を進めるべき
- ✓ 国・自治体は、そうした機能の実効性を高めるための支援を強化することが重要
- ✓ 協力者を増やすため、顕彰制度等のインセンティブ拡充や支援策が必要

4.アントレプレナーシップ教育普及に向けた意見⑤

地域総ぐるみでアントレプレナーシップ教育を進めるべき

現状の課題

- ✓ 人手不足が深刻度合いを増している今、人材育成は教育界だけに任せるのではなく、**地域の産業界が主体的に関わるべき社会課題**となっている



- ✓ 企業もこれからの社会を担う人材をともに育てるという強い意識を共有し、**地域総ぐるみで関わる必要がある**
- ✓ 商工会議所は、これまでのキャリア教育支援活動等のノウハウを活かした人材育成を進めるとともに、**地域・企業に対してその必要性を周知・啓蒙する役割を担っていく**

挑みつづける、変わらぬ意志で。

